

美術科学習指導案

指導者 重本 優紀

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日 (土) 第 2 校時 (10:05~10:55)
- 2 学年・組 中学校第 1 学年 2 組 計 40 名 (男子 19 名, 女子 21 名)
- 3 場 所 中学校美術室
- 4 題 材 名 カプセルトイの提案
- 5 題材について

本題材は、学習指導要領（平成 29 年告示）美術第 1 学年の内容 A 表現（2）ア（イ）、A 表現（1）イ（イ）、B 鑑賞（1）イ（ア）、〔共通事項〕（1）アに重点を置いて指導を行う。東雲図画工作科・美術科がめざす生徒像にかかわって、生徒が「自分らしい感性にもとづいた美意識をもち、身の回りのさまざまな対象や環境に主体的に働きかけながら学校生活をよりよくしていこうとする」態度を育むことを目指して設定した。本題材で取り上げるカプセルトイは、ミニチュアのおもちゃとしての役割があるだけでなく、地域の活性化にかかわって地域の特性を宣伝するために「ご当地もの」を取り入れてデザインされたものや、使う人がそのおもちゃに癒しを感じたり、新しい発見をしたりするなど、人の心に働きかける工夫が取り入れられているものなどがあり、生徒が生活を美しく豊かにする美術の働きについて身近に考えやすい題材である。また、ひとつのテーマについて複数のパターンがあり、使う人がすべてのパターンを集めたいくなるような工夫を試行錯誤できる題材でもある。本題材では、テーマを「東雲中学校のクラスター活動を PR するためのカプセルトイの提案」と設定する。本校のクラスター活動は、生徒が異学年縦割りの 6 色のグループ（以下クラスター）に分かれ、学校生活や行事などの場面で仲間と助け合い、絆を深め合うものであり、本校の伝統的な活動である。この提案は、生徒が自分たちの生活や楽しみをもとに主題を生み出し、地域や後輩、仲間へ主体的に働きかけることができるテーマだと考える。PR の内容は、クラスター色を表すもの（例えば色からイメージするモチーフを選ぶ）、クラスターの思いをイメージ化したもの（例えば仲間が集い協力する様子を粒の塊であるブドウで表す）、行事で使う道具（例えばはちまき、かるた）を盛り込むことなどが考えられる。素材は樹脂粘土を用いる。樹脂粘土は造形の際に細部まで表現しやすい素材であり、一般的なカプセルトイの質感に近い。着彩は粘土にポスターカラーを練り込んだり、表面に直接彩色したりする。

本学級の生徒は、テーマに沿って制作をする際に、様々な形を選んだり、組み合わせを工夫したりするなど、自分らしさを表現する工夫を楽しもうとする姿が多く見られた。一方で、デザインをする際に、目的や条件と自分の思いをすり合わせたり、自分がつくりたいものを形にするためのイメージを抽出したりすることに難しさを感じる様子があった。そこで、カプセルトイの提案という、大きさに制約がある、立体物にする必要があるなど、目的や条件がある中でどのように自分の思いを表現するかを考えることに挑戦する活動を取り入れることにした。活動の中で試行錯誤する経験を通して目的を達成する喜びを味わえるようにしたい。生徒はこれまでに色の性質について学習し、色彩が見る人の気持ちに影響を与えることや、見る人によって感じ方が変わることなどを学んでいる。また、スケッチを通してものの特徴を捉える活動をしており、本題材においてさらに身の回りにあるものの造形的な美しさを感じ取る力を伸ばしたい。

指導にあたっては、生徒が自分自身のクラスター活動を振り返りながら構想を練ることができるように、ワークシートに記入し小グループで共有する活動を取り入れる。アイデアスケッチの段階で形のパターンをいくつか考えられるようにワークシートの枠をつくり、見る人に魅力が伝わるようなトイになるように、おもちゃらしい大きさや形の丸みを出したり、配色をしたりできるよう意識付けする。制作

の際には、大きさのイメージができるようにカプセルを準備する。また、粘土の性質を生かして計画的に制作することができるように、試作を重ねながら構想を練り直す活動を取り入れる。生徒の活動を見取る際にワークシートの記述や生徒の発言を基にして、生徒がつくりたいものを表現するための方法について、立体感の出し方や見る人の感じ方を考慮した配色、また粘土の扱い方などを具体的に提案し、生徒の思いと表現の技能がつながるように留意する。

6 題材の目標

- (1) 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し工夫して表す。また、粘土やポスターカラーの特性から制作の順序を考えながら見通しをもって表す。
- (2) 伝える目的や条件などを基に伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練る。また、身の回りにある自然物や人工物の形や色彩などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして見方や感じ方を広げる。
- (3) 身近なものの中にある造形的な美しさを感じ取り、生活を豊かにするための工夫に関心をもち、楽しく美術の活動に取り組もうとする。

7 指導計画（全9時間）

次	時	学習内容
1	1～2	カプセルトイの構想を練る
2	3～7	カプセルトイの試作品をつくる（本時5／9）
3	8～9	カプセルトイを提案する

8 本時の目標

自分がつくりたいものを表現するための見通しをもって制作する。【知識・技能】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

（1）教師がもつルーブリック

基準	具体的な生徒の姿
Ⅲ	前時までに制作した粘土の質感や色みをもとにワークシートの構想を見直し、素材の性質を生かしながら自分がつくりたいものを表現するための方法を理解し工夫してつくっている。
Ⅱ	前時までに制作した粘土の質感や色みをもとにワークシートの構想を見直し、自分がつくりたいものを表現するための方法を工夫してつくっている。
Ⅰ	前時までに制作した粘土の質感や色みをもとにつくろうとしているが、自分がつくりたいものを表現するための方法を選び取ることができていない。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○ 試作を重ねながら構想を練り直す活動を取り入れる。【授業構想力】	
○ カプセルトイを使うことを考えて制作に取り組めるように、実際のカプセルトイの大きさやおもちゃとしての丸みや色みのよさに気づけるよう視点（形や大きさの制約、色の選択方法など）を押さえる。【授業構想力】	
○ ワークシートの記述や生徒の発言を基に生徒がつくりたいものを表現するための方法（立体感の出し方、配色、粘土の扱い方など）を具体的に提案する。【授業分析・評価力、授業実践力】	

(2) 学習者の自己評価

- ワークシートに構想を練ったり制作の計画を立てたりしたことを記録し、制作のはじめや途中段階で確認しながらつくる。
- 授業終わりにワークシートを振り返ってタブレットに記録し、ポートフォリオとして活用しながら次時の見通しをもつ。

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. タブレットの自己評価を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・前時に書いた「次に頑張ること」の確認	○ クラスター活動の PR としてつくることを意識付けする。
自分のつくりたいものを表現するための見通しをもって制作する。	
2. 前時でつくった試作を基に構想を見直し、ワークシートに制作の手順を考えてかく。 ・粘土の質感の生かし方 ・ポスターカラーを練り込む／直接着色する ・粘土ベラ、クリアフォルダーなど道具の使い方	○ 制作の手順を考えやすいようにするための視点を押さえる。 ・形や大きさの制約 ・色の選択 ・粘土の性質 ・道具の効果的な使い方
3. ワークシートにまとめたことをグループで共有し、お互いの手順を確認し合う。	○ 制作方法を共有することで見通しをもちやすくする。また、アドバイスし合いながらつくることができるように促す。
4. ワークシートを確認しながら制作する。 ・粘土の分量を考えて分ける ・色を練り込む ・成形する	○ 試行錯誤しながら制作できるようにワークシートを修正してもよいことを伝える。 ◆ 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し工夫して表そうとしている。また、粘土やポスターカラーの特性から制作の順序を考えながら見通しをもって表している。【知識・技能】
5. タブレットで制作過程の写真を撮り、粘土の保存方法を考えて片付ける。 ・乾かす場合はそのままケースに保存 ・乾かさないうちはラップを巻き袋かケースに保存	○ ポートフォリオとして活用できるようにするため制作過程は授業終わりだけでなく、手順が進むごとに記録するよう呼びかける。
6. タブレットに自己評価を入力する。 ・できたこと：ワークシートの計画のどこまで進んだか ・感想：この授業で考えたこと ・次に頑張ること：次の時間にどこまで進めようと思っているか、修正したいことはあるか ・困ったこと	○ 試行錯誤しながらつくること、その中で見通しをもって進めていく大切さを伝える。 ・計画を修正しながらよりよいものにしていくこと ・「次に頑張ること」が次時のパフォーマンス課題になること